



 **小美玉市**

防災 ハザード マップ

Omitama City
Disaster prevention hazard map



◆ハザードマップの使い方 …… 1

- ◆ハザードマップの活用法

◆災害を知る …… 2

◆風水害時の避難行動と目安 …… 3

- ◆警戒レベルと防災気象情報
- ◆小美玉市の主な河川水位情報
- ◆雨の降り方と雨量の目安
- ◆避難行動とは
- ◆避難時の心得

◆マイ・タイムライン …… 6

◆地震時の被害 …… 7

- ◆震度と被害想定
- ◆地盤の液状化現象

◆地震時の避難行動 …… 8

◆日頃からの備え …… 9

- ◆備えておくべきこと
- ◆自助・共助・公助
- ◆非常持出品・備蓄品の準備

◆避難所、関係施設一覧 …… 11

- ◆避難所での注意点
- ◆避難所生活での感染症の注意点

◆地区別ハザードマップ

- 全体図 …… 13
- 小川地区 …… 15
- 美野里地区 …… 17
- 玉里地区 …… 19

◆洪水ハザードマップ

- 霞ヶ浦 …… 21
- 巴川 …… 25

◆ため池ハザードマップ …… 27

- 遠州池
- 新池
- 東池

◆地震ハザードマップ …… 29

◆ハザードマップの使い方

ハザードマップとは、台風、大雨、地震がおこった場合に、どの地域にどのような危険性があるか、また、災害がおこったらどこへ避難するのかを地図に示したものです。

「小美玉市防災ハザードマップ」では、洪水、土砂災害、ため池氾濫、地震を対象とし、災害への備え、情報収集、避難行動について掲載し、住民の皆様の防災意識の向上と被害を最小限にすることを目的としています。



◆ハザードマップの活用法

災害発生前

1 家の位置を確認しましょう

→ P13 ~ P30



2 避難場所等を確認しましょう

→ P13 ~ P30



3 避難ルートを考えてみましょう

→ P13 ~ P30



4 災害や避難について、話し合ってみましょう

→ P2 ~ P12



災害発生時

5 テレビやラジオ、インターネットなどで気象情報、避難情報を確認してください

→ P3~P6、裏表紙



6 避難してください

→ P13~P30



ハザードマップはあくまで想定図です。場所によっては異なる状況になることも想定されますが、ハザードマップを確認し、災害をイメージしておくことで、いざというときあわてず行動できるようにしておきましょう。あらかじめ目を通し、日ごろの備えとしてください。

◆災害を知る

風水害

台風や局地的な大雨などで激しい雨が降り続けると洪水などの災害が発生するおそれがあります。



大雨などで川の水量が増え、堤防を越え、決壊させて水が外に流れでてしまう現象です。
雨により排水路やマンホールなどから水があふれる内水氾濫とは違い、急激に水位が上がるため最大の注意が必要です。



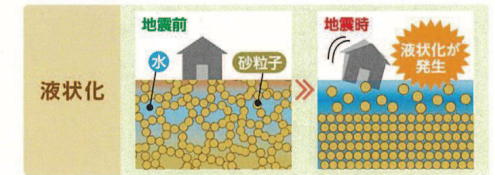
長時間の雨や地震の影響で、ため池の堤の土が緩んだり亀裂が入ったりすることで堤防が崩れ、水が流れ出てしまう現象です。

地震

地震とは、地下の岩盤(プレート)が周囲から押される、もしくは引っ張られることによって、岩盤が急激にずれ、揺れが発生する現象です。



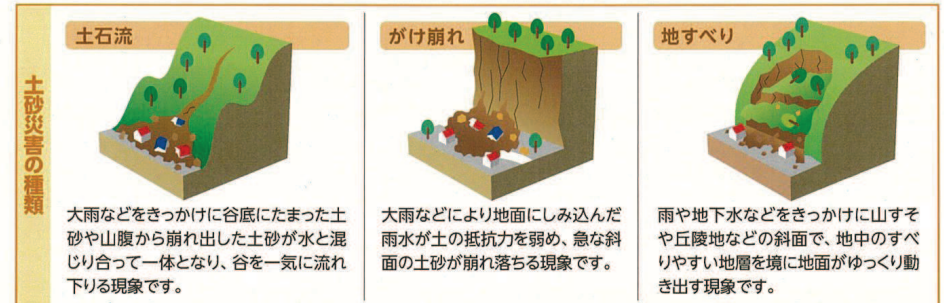
地震には、陸地の地盤内で起こる「内陸型地震」と大陸プレートと海洋プレートのずれで起こる「海溝型地震」があります。「内陸型地震」は直下型地震とも呼ばれ、地表に近い場所が震源となることが多いため深刻な被害を引き起こす揺れが生じるおそれがあります。



砂地盤などのゆるい地盤が地震により激しく揺られ、地面が液体のように柔らかくなってしまいます。

土砂災害

大雨や地震により、山やがけが崩れたり、水とまじりあった土や石が流れ出たりする現象です。



以下のような前兆現象に気付いたら、すぐに安全な場所に避難し、市や警察、消防などに通報しましょう。

- がけに割れ目が見える
- がけから水がわき出ている
- がけから小石が落ちてくる
- 急に川が濁り流木が混ざっている
- 山鳴りがする
- 沢や井戸の水が濁る
- 道路にひび割れができる
- 斜面から水がふき出す

土砂災害警戒情報

大雨による土砂災害発生危険性が高まったとき、気象庁と茨城県から共同で発表されます。この情報が発表されたときは土砂災害が非常に起こりやすい状況ですので警戒を強めてください。

◆風水害時の避難行動と目安

大雨などによって災害がおこるおそれがある時、市は避難の呼びかけ（避難情報）を行います。呼びかけがあった際は、早めの避難を心掛けましょう。また、目安として気象庁等が発表する情報も参考としてください。

◆警戒レベルと防災気象情報

警戒レベル	状況	住民の皆様が取るべき行動	避難情報等	防災気象情報（警戒レベル相当情報）		
				浸水の情報（河川）	土砂災害の情報（河川）	キキクル（危険度分布）
警戒レベル 5	災害発生または切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保	氾濫発生情報	大雨特別警報（土砂災害）	災害切迫
警戒レベル4までに必ず避難!						
警戒レベル 4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示	氾濫危険情報	土砂災害警戒情報	危険
警戒レベル 3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難	氾濫警戒情報 洪水警報	大雨警報	警戒（警戒級）
警戒レベル 2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報	氾濫注意情報	—	注意（注意報級）
警戒レベル 1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報	—	—	

※気象庁は、住民自らの避難の判断を下す際に参考となるよう気象情報に「警戒レベル 3～5相当」というように「相当」という表現を用いて発表しますが、市では、市内の状況を見極めて避難情報を発令するため警戒レベルと警戒レベル相当は必ずしも一致しません。

◆小美玉市の主な河川水位情報

河川名 (水位観測所)	降水量			
	水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位
霞ヶ浦 (出島)	1.50m	2.10m	2.50m	2.60m
巴川 (北浦橋)	2.20m	2.70m	3.30m	3.43m
園部川 (小川)	2.70m	3.00m	—	—

◆雨の降り方と雨量の目安

予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量 (mm)	10以上～ 20未満	20以上～ 30未満	30以上～ 50未満	50以上～ 80未満	80以上～
状況	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような 圧迫感がある。 恐怖を感じる。

キキクル（危険度分布）

大雨時には、雨は地中にしみ込んで土砂災害を発生させたり、地表面に溜まって浸水害をもたらしたり、川に集まって増水することで洪水を引き起こしたりします。
キキクルでは、大雨による河川の洪水や土砂災害の発生危険度が高まり、警報等が発表された際に、どこで危険度が高まるかを確認することができます。避難する際の判断にお役立てください。



気象庁/
キキクル(危険度分布)

キキクル(危険度分布) <https://www.jma.go.jp/bosai/risk>

キキクル(危険度分布)の通知サービス https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/bosai/ame_push.html

大雨警報・洪水警報の危険度分布(概要)



◆風水害時の避難行動と目安

◆避難行動とは

避難行動には、自宅外の安全な場所へ移動する「立退き避難(水平避難)」と、自宅の2階など屋内でより安全な場所へ移動する「屋内安全確保(垂直避難)」があります。避難するタイミングに応じて、最も適切な行動をとりましょう。

立退き避難(水平避難)

河川の近くや浸水深が大きくなる地域、土砂災害のおそれのある地域など、そこにいることが危険な場合は、避難所などへ立退き避難(水平避難)をしましょう。立退き避難は災害が発生する前に行うことが原則です。

屋内安全確保(垂直避難)

屋外へ出ることが危険な場合は、避難するタイミングに応じて自宅に留まり2階へ移動するなど、屋内安全確保(垂直避難)をしましょう。

◆避難時の心得

① 正確な情報収集と自主的な避難を

ラジオ・テレビ・インターネットで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

② お年寄りなどの避難に協力を

お年寄りや子供、障害のある方は、早めの避難が必要です。近所の方々が避難に協力しましょう。

③ 避難の呼びかけに注意を

危険が迫ったときには、市や消防団から避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。

④ 動きやすい格好、2人以上での避難

避難するときは、動きやすい格好で、2人以上での行動を心がけましょう。

⑤ 浸水している場所は注意が必要

浸水している場所は足元が見えず側溝やふたの外れたマンホールなどに転落するおそれがあり危険です。長い棒などで足元を確認しながら歩きましょう。

⑥ 流れのある場所へは近づかない

ゆっくりとした流れでもひざの高さになると危険です。用水路や河川など流れのある場所には近づかないようにしましょう。

◆マイ・タイムライン

◆マイ・タイムライン

台風の接近や大雨によって災害のおそれがある場合、自分や家族が「いつ」「何をするのか」を整理し、メモ欄に書き込んでみましょう。避難の判断の目安や、いざという時の行動のチェックとして活用できます。

気象状況	河川の状況	警戒レベルと気象庁等の情報	住民が取るべき行動
大雨の 数日～約1日前	●自分がある場所で雨が降っていないでも、上流で雨が降れば川が増水するおそれがあります。	LEVEL 1 早期 注意情報	災害への心構えを高める ●テレビ、インターネット等で天気予報を確認。 MEMO
大雨の 半日～数時間前	水防団待機水位 ●河川が増水し、河川敷にも水が流れ、道路が冠水するおそれ。 氾濫注意水位 ●河川が溢れるおそれ。	LEVEL 2 大雨注意報 洪水注意報	自らの避難行動を確認 ●ハザードマップ等により、自宅の災害リスクと避難情報等の取得方法を再確認。避難のための準備を開始。 MEMO
大雨の 数時間～2時間 程度前	●河川の更なる増水による氾濫。 ●道路の冠水。 ●家の床上浸水のおそれ。	LEVEL 3 高齢者等避難 大雨警報 洪水警報	危険な場所から高齢者等は避難 ●避難に時間がかかる高齢者や障がいのある方は避難を開始。 MEMO
●大雨となる。 ●大雨が一層激しくなる。	氾濫危険水位 ●河川の水が堤防を超える前に、安全な場所へ避難!	LEVEL 4 避難指示 氾濫 危険情報	危険な場所から全員避難 ●台風等により暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。 MEMO
⚠ 警戒レベル4までに必ず避難 ⚠			
数十年に一度の 大雨	氾濫が発生	LEVEL 5 緊急安全確保 大雨 特別警報 氾濫 発生情報	命の危険 直ちに安全確保! ●すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。 MEMO

雨風が強くなる前に備える時期

水位等の状況を把握しつつ、避難に要する時間に応じて避難行動を開始する時期

身の安全を確保すべき時期

◆ 地震時の被害

◆ 震度と被害想定

震度とは、地震が起こったとき、ある場所での揺れの程度を表すものです。場所や状況によって多少の違いがありますが、震度によって次の被害が想定されます。

震度 1~3

- 室内にいる人が揺れを感じる。



震度 4

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物が大きく揺れる。



震度 5弱

- 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。



震度 5強

- 物につかまらなさと歩くことが難しい。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



震度 6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れる。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。



震度 6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりなどが発生することがある。



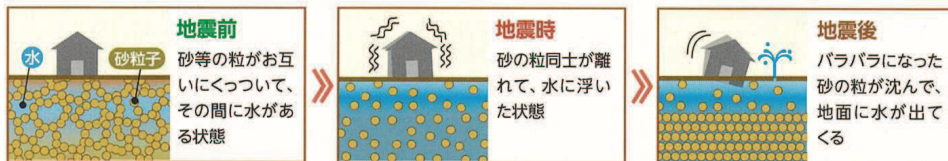
震度 7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。



◆ 地盤の液状化現象

液状化は、地下水で満たされている砂地盤などが地震による振動で砂の粒の結びつきがバラバラになって地下水に浮いたような状態になることです。液状化した地盤では、その上に立っている建物などが沈下によって大きな被害を受けます。また、地中にあるマンホールが浮き上がったり、水道管などが破損したりします。



◆ 地震時の避難行動

地震発生から避難までの行動のポイントをまとめました。どのタイミングでどのような行動を取ったら良いか確認しましょう。

グラっときたら身の安全を確保!

地震発生 → **緊急地震速報!** → **まず低く** → **頭を守り** → **動かない**

安全確保・避難準備

- 落ちついて火の元を確認し、出火していたら初期消火しましょう。
- 窓や戸を開け出口を確保しましょう。
- 外出前にブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難しましょう。

避難行動

- 余震に注意しながら避難しましょう。
- 隣近所の安否確認を行いましょう。
- 火災を見つけた場合、延焼を防ぐため初期消火を行いましょう。
- 地域で協力し合って救出、救護を行いましょう。

避難生活

- 自宅で生活が不可能 → 避難所へ
- 自宅で生活が可能 → 自宅へ

家の外にいた場合は…



路上にいた場合

ガラスの破片、看板などが落ちてくる可能性があるため、建物からは離れましょう。



車を運転中の場合

避難をする時は、道路の左に寄せて止め、ドアはロックせずにキーを差したままにしましょう。



エレベーターの中の場合

すべての階のボタンを押し、動かないなら非常用連絡ボタンを押しましょう。



地下街にいた場合

停電の場合は、誘導灯を確認し、地下街係員の指示に従って避難しましょう。

